

市政一般報告……………1～7面
18年度予算の概要……………8～9面
衆議院議員補欠選挙……………10面
介護保険制度改正……………12～13面
おしらせ・4月の相談日……………16～17面
4月の休日当番医……………20面

平成18年第1回定例市議会市政一般報告

市民参加のもと

安全と安心・環境の保全

福祉の充実・雇用促進など展開

平成18年第1回定例市議会で、根本市長は、浸水対策や江川地区の自然環境保護、シルバープランの見直し、トライアル雇用事業などの進捗状況を報告しました。本号では、その概要をお知らせします。

合併関連事業の進捗状況

◆新市の一体感の醸成

新市建設計画に基づく実施計画に35の合併関連事業を掲げ、平成16、17年度で32の事業を実施し、未実施の事業は3つとなっています。現在、18年度から3年間の実施計画を作成中ですが、18年度は、愛宕駅東口交通結節点改善事業をはじめ、継続事業を含めて26の事業を実施します。

合併特例債は、17年度は3月補正後で18事業、9億2千万円の発行となります。18年度には20事業で16億4千万円の発行を予定し、置換え率は45パーセントとなります。発行額が大きく増えています。これは愛宕駅東口交通結節点

改善事業のスタート、小中学校の耐震補強工事の実施、六丁四反水路改修事業の本格化などによるものです。

なお、「まめバス」は、利用者が1月26日に延べ50万人に達したことを記念して、2月1日から「記念乗車券」の販売などを行いました。また、中ルートの起終点を小山地区に変更し、4月から運行開始します。

都市基盤の整備

◆土地区画整理事業

七光台駅西地区は、18年度も、前年度と同様の形で共同分譲が行われる予定です。

船形地区は、18年秋ごろの一部利用開始に向け、造成工事や雨水

排水工事などを実施しており、また、年度内の仮換地指定に向け、関係地権者への事前説明も行われています。

台町東地区は、事業費

ベースで93パーセントを超える進捗にもかかわらず、保留地処分が難航し経営的に非常に厳しい状況が続いているため、指導監督の立場から市も関与して、事業完了に向けた計画を取りまとめています。

また、組合からの要望を踏まえ、県道バイパス沿いの保留地の一部は、用途地域を近隣商業地域に変更する方向で、野田市都市計画審議会に説明しています。

次木親野井地区は、進捗率が事業費ベースで90パーセントで、残工事の主なもの、都市計画道路親野井羽貫線と都市計画道路東宝珠花柏寺線(県道結城野田線)の一部です。

なお、地域開発事業債の償還の

財源となる保留地処分は、早期の処分方法の検討を進めています。

◆浸水区域の解消対策

排水整備は、16年度に記録的な降雨により浸水被害が発生した場所を重点に整備を進め、18年度は新規6か所、継続9か所を予定しています。特に、合併時の最重要事業の一つの六丁四反水路の改修は、雨水を東宝珠花地先の江戸川に排水すべく、六丁四反水路から県道結城野田線を横断する管きよを築造し、国土交通省との共同作業により18年度中に周辺の浸水被害を解消するとともに、19、20年度で、旧京樽前と関宿高校前の改修を行います。



土地区画整理事業が進められる野田市駅西地区